

JA共済の農作業事故体験VRのご紹介

全国共済農業協同組合連合会

農業・地域活動支援部

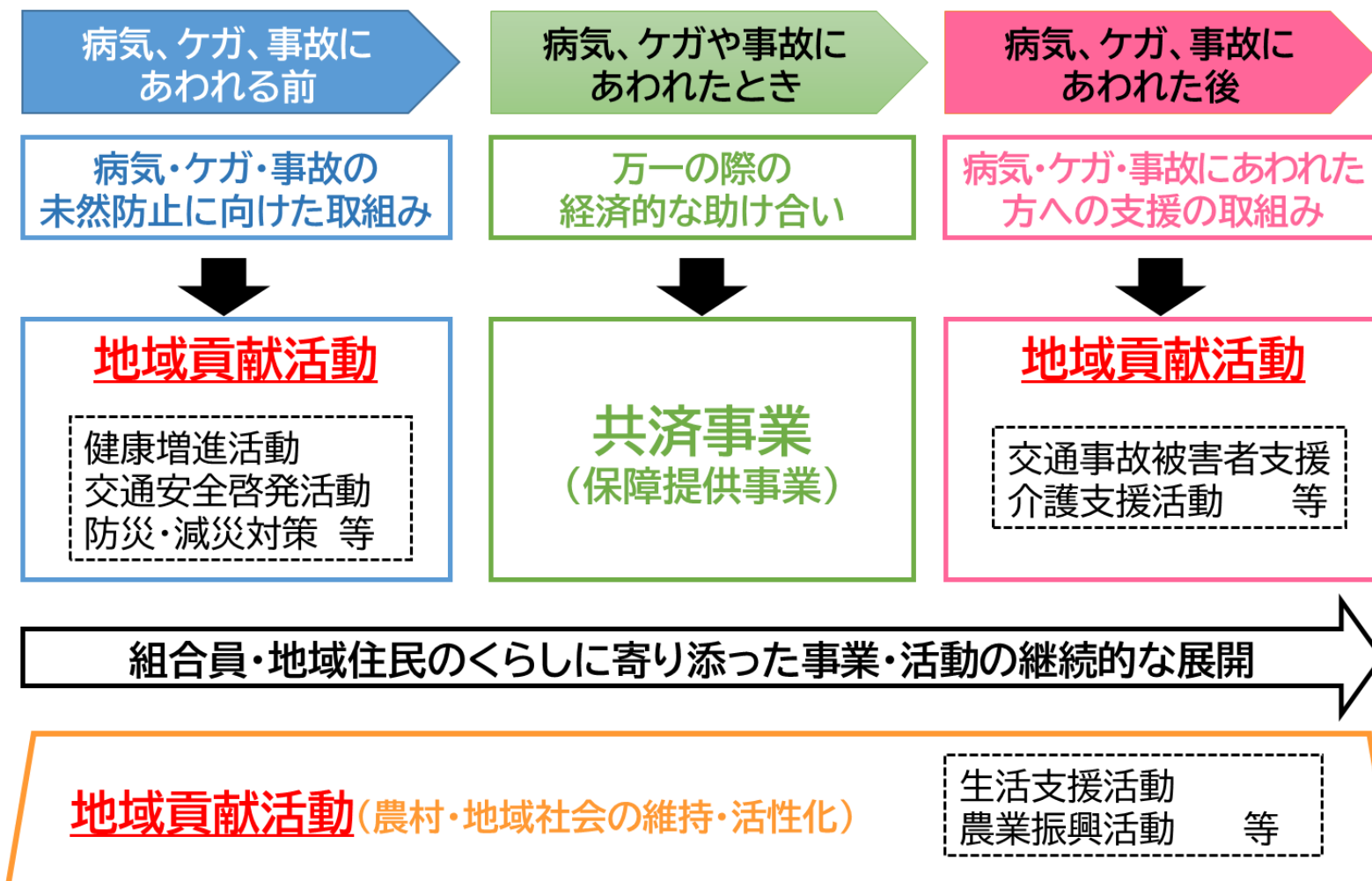


1 はじめに



JA共済は、「相互扶助(助け合い)」を事業理念に、皆さまが豊かで安心して暮らせるために、「①保障の提供」と「②地域貢献活動」を通じて、農業と地域社会の活性化・発展に努めています₁

2 地域貢献活動



JA共済は、万一の際の保障提供（共済事情）だけでなく、地域貢献活動を通じて、病気・ケガ・事故の未然防止や病気・ケガ・事故にあわれた方への支援、さらには継続的な農村・地域社会の維持・活性化に向けた活動など多岐にわたって行っています。

2 地域貢献活動



ひと
分野

■健康管理・増進活動



レインボー体操の普及

■介護・福祉活動



しあわせ健康教室の開催



介護・医療機器等の寄贈



いえ
分野

■災害救援活動



災害シートの無償配布

■防災・防火対策活動



災害キットの無償配布

■復興支援活動



仮設住宅の無償貸与



くるま
分野

■交通事故・未然防止活動



自転車交通安全教室の開催

■交通事故・被害者支援活動



自動車安全運転診断の実施



介助犬の育成・普及支援



くらし・営農
分野

■農業振興活動



農業高校等への支援

■文化支援活動



農業体験の開催支援

■生活支援活動



書道・交通安全ポスター
コンクールの開催

JA共済の地域貢献活動は、ひと・いえ・くるま・くらし・営農の分野に分類されます。地域の皆さまが健康で安心して暮らせるよう、それぞれの分野で未然防止と事後支援の活動を展開しています。

3 農作業事故の発生状況

農業の死亡事故件数

就業者10万人あたり **11.6件** 発生

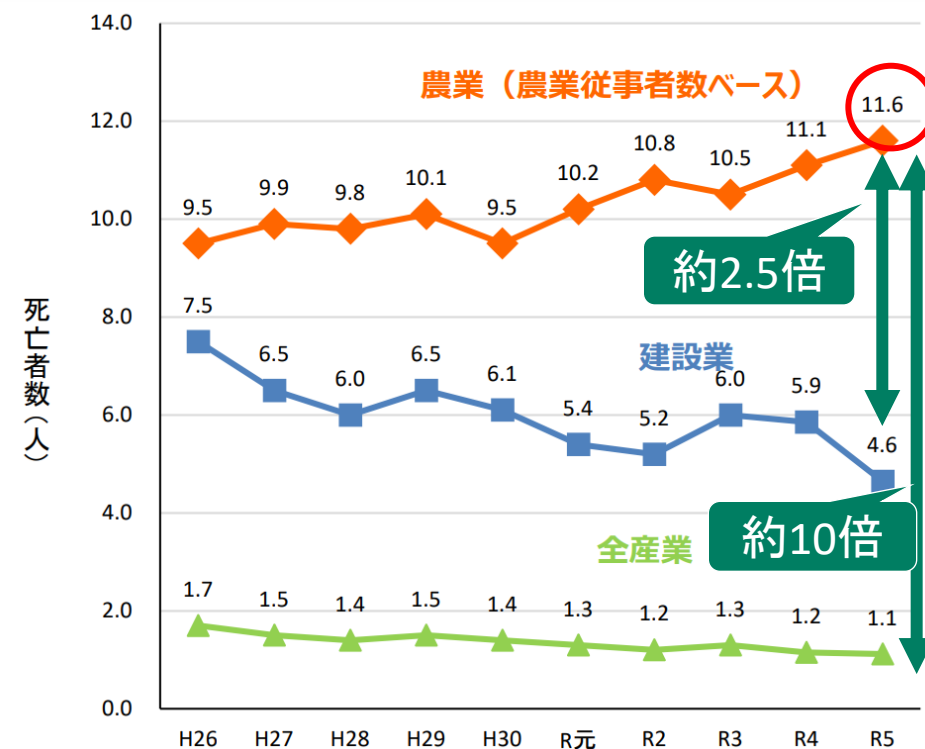


建設業(4.6件)の**約2.5倍** !

全産業平均(1.1件)の**約10倍** !

特に、営農分野においては、農業における死亡事故発生率が非常に高く、農家組合員のくらしを守る使命を持つJA共済として、農作業事故の未然防止が喫緊の課題となっています。

■ 10万人あたりの死亡事故発生件数の推移



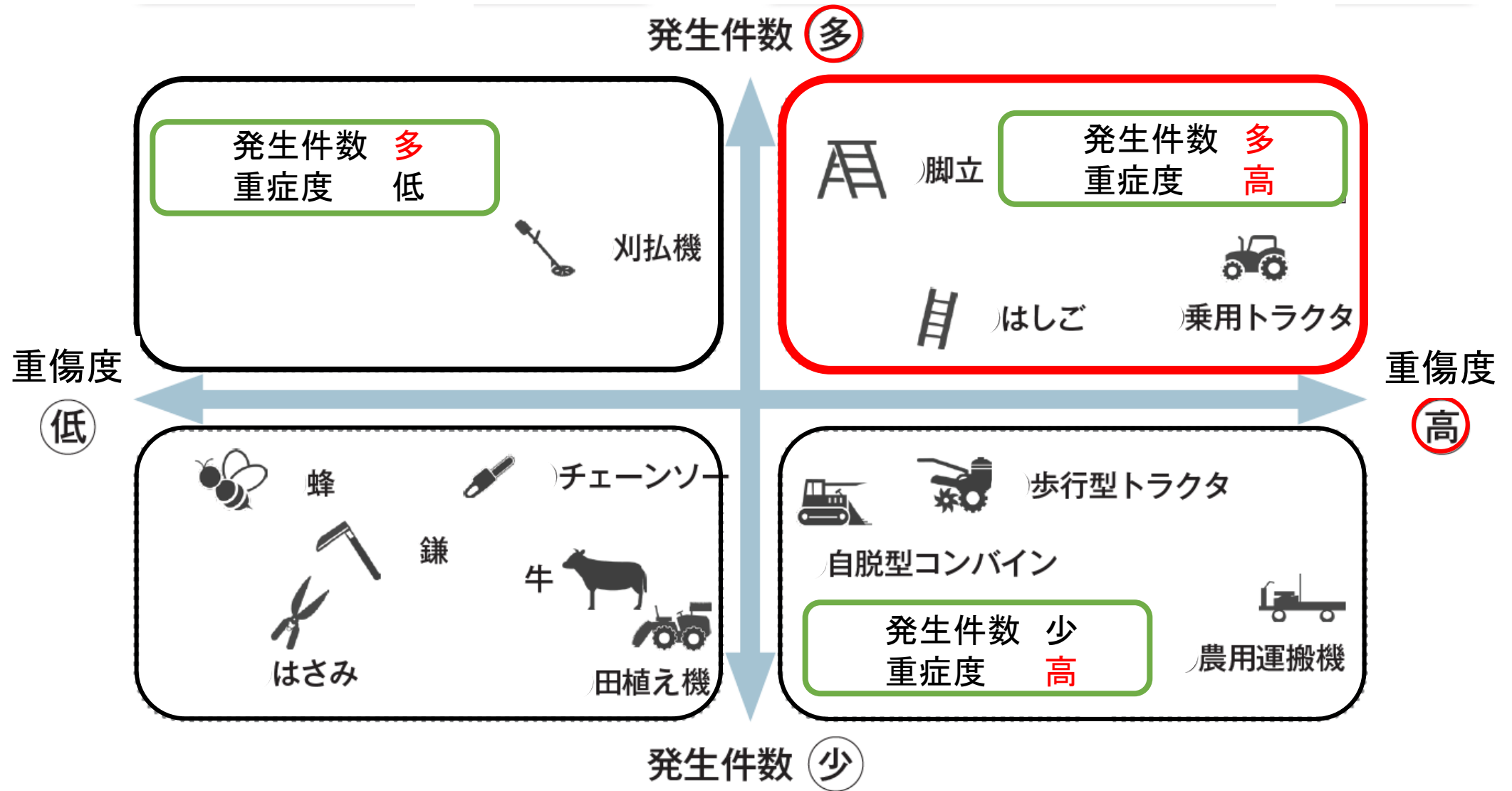
死亡者数 農 業：農作業死亡事故調査（農水省）
他産業：死亡災害報告（厚労省）
就業者 農 業：農林業センサス、農業構造動態調査（農水省）
他産業：労働力調査（総務省）

（注）就業者10万人当たり死亡事故者数の算出において就業者として使用していた農業就業人口の調査が令和元年で終了したため、令和2年から農業従事者数を使用して算出。

（出典：令和7年2月農林水産省
「令和7年度の農作業安全対策の推進方針について」）

3 農作業事故の発生状況(JA共済支払データの活用)

優先して対処すべきリスク



JA共済では、4年に1度、共済金請求時の事故データ約3万6千件を分析しています。そのなかで、重症度×発生件数でリスクを可視化した独自のリスクマップも作成・公開しています。

4-1 農作業事故体験VRを活用した学習プログラムの展開

■農作業事故体験VRコンテンツ一覧(全8本)

※①～⑤は令和2年3月、⑥～⑦は令和4年4月、⑧は令和5年2月リリース



①乗用型トラクター
転倒事故



②コンバイン
巻き込まれ事故



③スピードスプレーヤー
挟まれ事故



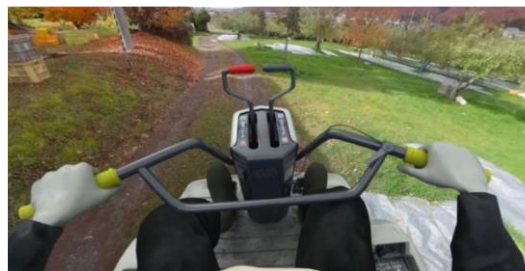
④耕うん機
後進作業事故



⑤刈払機
刃との接触事故



⑥脚立
転落事故



⑦農用運搬機
転倒・積み卸し作業事故



⑧田植え機
巻き込まれ・転倒編

さらに、分析結果をもとに、農研機構と共同で、日本初となる農作業事故体験VRを開発。事故を疑似体験できるプログラムを全国で展開しています。

農作業事故の原因や対策について深く学べるプログラム

「VR映像」で農作業事故を疑似体験、自分ごと化

+

「学習動画」で事故の発生原因や安全対策を確認



テーマ3：農機の転倒(まとめ)



チラシによるVR体験動画の振り返りができます！

農作業安全バトロール
乗用型トラクター 転倒編 **VR**

！ 農作業事故はどのくらい起きているの？
農作業事故は年間 **約7万件**、1日あたり**約200件**発生しています！※1
農業従事者10万人あたりの死亡事故者数は建設業の**約2倍**となっています！※2

！ 乗用型トラクターではどのような事故が起きているの？
運転中の転倒・転落や準備・整備中の事故が多く発生しています。
特に**4～6月・10～11月**に多発しています。

！ 事故事例1：道路走行中の転倒事故

道路を走行中、前方から自動車
が来たので避けようとしたところ
路肩との距離を見誤り道路から
転倒。
破損したガラスで左腕を負傷、
左大腿部を打撲してしまいました。

事故の要因 環境要因 物要因 人要因

- 車間とすれ違うには狭い道となっていました。
- 前方の対向車に気をとられ、十分に路肩の位置を確認できていませんでした。
- シートベルトを着用していませんでした。

対策

- 路肩に寄せる際はできるだけ安全な距離を確保するようにしましょう。
- ヘルメットおよびシートベルトを着用しましょう。

！ 事故事例2：日没後の追突事故

トラクターに作業機を付けた
まま、日没後に道路を走行中、
乗用車に追突され、機体が道路
左の水路に転倒。
トラクターの下敷きとなって
死亡してしまいました。

事故の要因 環境要因 物要因 人要因

- 現場は街灯が少ないため、夕方になると一気に暗くなります。
- 作業機を付けた状態で、乗用車からは反射器が見えず、運転者自身も後方が見えなかった可能性があります。
- 低速車マークを装着していませんでした。
- 安全キャブ・フレームがない古い機体でした。

対策

- できるだけ夜間の走行を避けるスケジュールで作業を進めましょう。
- 保安基準を満たす灯火器類を必ず取り付けるとともに、低速車マークや反射材を装着し、他車に存在を確認してもらえ対策を行うようにしましょう。
- 安全キャブ・フレームを備えたトラクターを使用し、ヘルメットおよびシートベルトを着用しましょう。

よくある事故シーンを動画で紹介！
農作業事故を再現した
「乗用型トラクター 転倒編 (VR動画)」
はこちら！
事故の要因や対策が学べます！！

農作業事故体験VR動画は
こちらからもご覧いただけます



▲ J A 共済の地域貢献活動 H P
ちいきのきずな
「農作業事故体験 V Rを活用
した学習プログラム」

各種動画をご視聴いただけます。

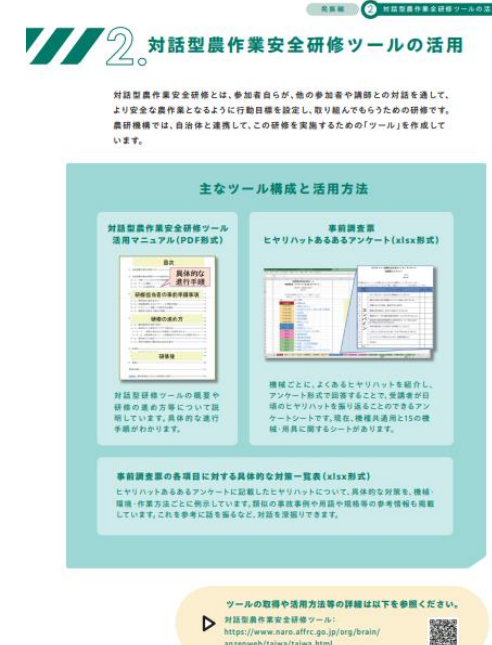
VR動画をもとに
事故事例をイラストで紹介

チラシ裏面のQRコードからも
動画が視聴可能！

講師向けの資料を作成・展開し、負担軽減・研修内容の均一化を目指しています！

令和6年度に、農研機構とともに作成した「**農作業事故体験VRを活用した学習プログラムの手引き**」を公開しました。

講師経験の有無や研修の目的等に応じて、研修会の組み立て方を解説しつつ、さらに学習効果を高めるために、「対話型研修」の実施方法等も解説しています。



農作業事故体験VRを用いた研修会

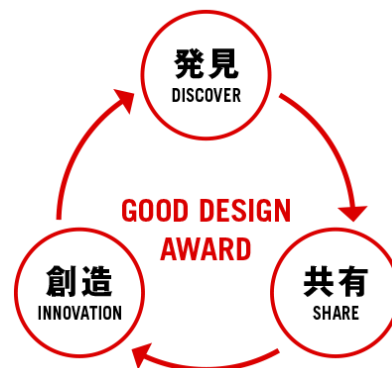
令和2年度より展開

徐々に活用機会が拡大し、令和6年度は
全国43都道府県本部にて延べ**303**回開催

「持続可能な社会の実現に貢献している」等と高評価を得て、
(公財)日本デザイン振興会が主催する「**グッドデザイン賞
(2020)**」を受賞！

グッドデザイン賞とは、1957年に通商産業省が実施した
「グッドデザイン商品選定制度」が前身となっており、日本で
唯一の総合的なデザイン評価・推奨する取り組みです。

デザインを通じて産業や生活文化を高める運動として、国内
外の多くの企業・団体やデザイナーが参加しています。



GOOD DESIGN
AWARD 2020



VRゴーグルを計260台運用し、JAのみならず、農業者・農業団体など
全国どこでも無償でお貸出ししております。
(一度に最大20台まで。送料等の費用も全てJA共済連が負担。)



JA共済



<ご活用例>

JA・自治体が行う農家向け・農作業安全指導者向け研修会、農機展示会等での体験会の他、将来の農業の担い手支援の観点から、農業高校や大学の授業でもご活用いただいています。

お問い合わせは、下記へお気軽にご連絡ください。

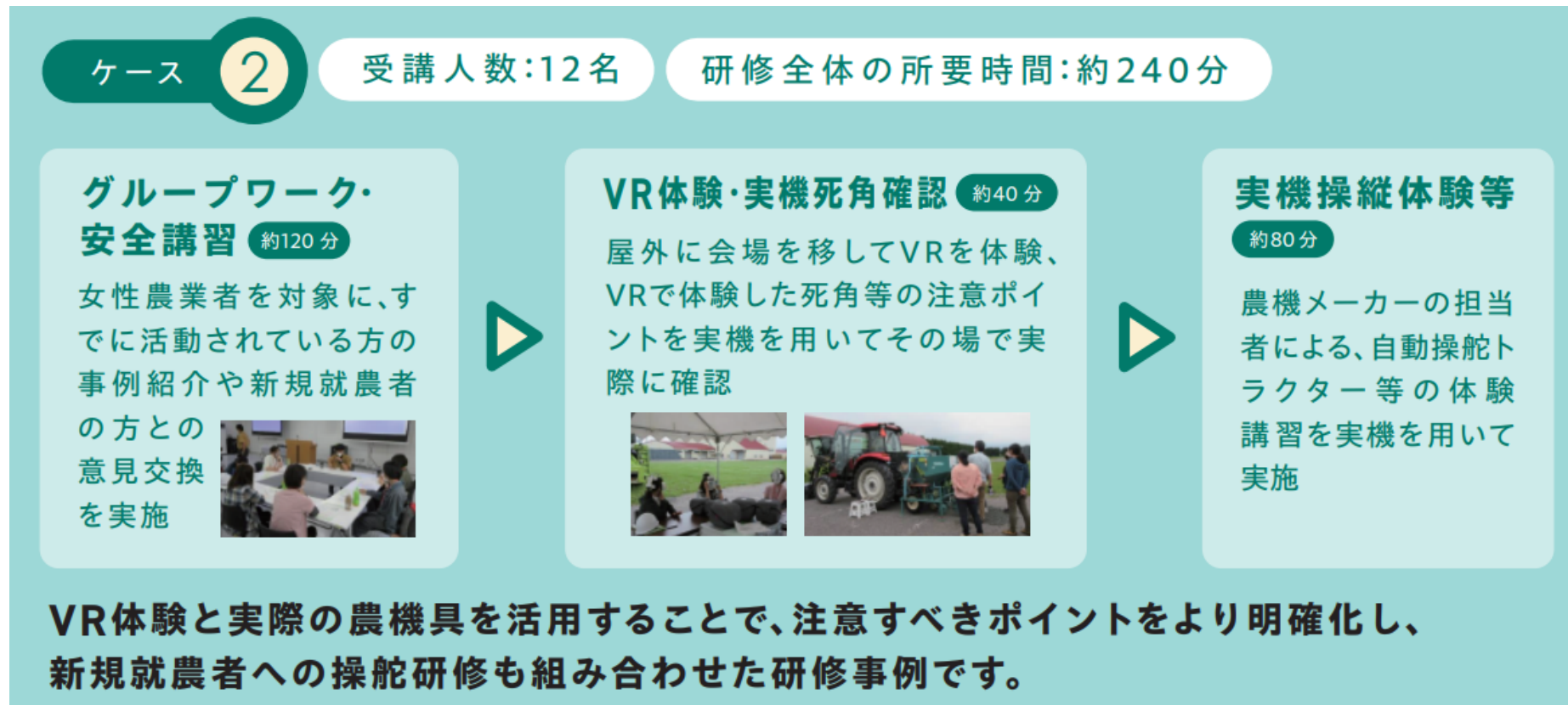
JA共済連 全国本部
農業・地域活動支援部 地域貢献運営G
TEL : 03-5215-9160

【参考】農作業事故体験VRの活用事例①

農作業事故体験VRを活用した研修会の主なケースをご紹介します。
“VRを体験して終わり”ではなく、参加者同士でディスカッションする時間を設けることを推奨しています。



また、実機を用いた学習の時間を設けることで、より具体的な注意ポイントの理解促進を図ることも可能です。
研修環境、時間、受講者に応じて自由にアレンジをすることができます。



1. リスクのお知らせ

農業・農業者を取り巻く様々なリスクが存在していること、また農業の事故率が高いことをお知らせし、リスクに関する注意喚起を行います。

■リスクのお知らせチラシ



2. リスクチェック

農業・農業者を取り巻く代表的なリスクを包括的に確認し、リスクに対する「関心」や「備えの有無」の確認(リスクチェック)を行います。

■リスクチェックシート



■農業リスク診断システム

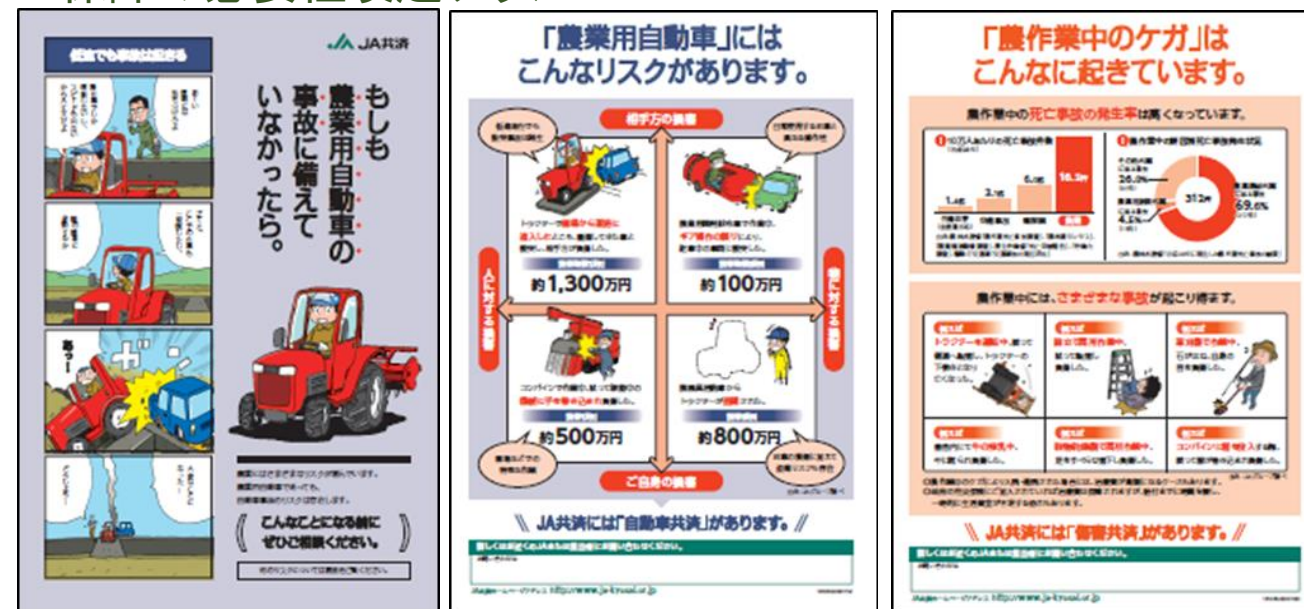


3. 総合的な対策提案

備えが不十分なリスクに対して保障提案を行います。

また、「農薬」や「事業承継」などの意見、要望等を取得した場合は、所管する事業部門に連携し、JAらしい総合的な対策（営農・経済＋信用＋共済等）を提案します。

■保障の必要性喚起チラシ



農業者の生活基盤・事業基盤の安定化

○農業リスク診断活動により、農業者に対して保障の提供を通じて安心・満足を提供するとともに、農業者の生活基盤・事業基盤の安定化を図ります。

ファーマーズ ファースト 農作業啓発特設サイト「FARMERS 1ST」を開設しました！



何よりもまず、**農家の方の笑顔**を思って

農業は、もっと楽しくなれるはず。

農家の人たちを、笑顔にできる力があるはず。

それをひきだすために、いま必要なのは「安心」です。

...

その安心を支えるために、JA共済では

事故防止のための取り組みを展開中。

ここでは、だれもが安心して農業と向き合える、

たしかに**情報発信**しています。

明日のお仕事に、ぜひ生かしてみてください。

○ 農家・組合員・担い手の方々へ向けて、農作業安全を中心としたさまざまな情報を発信するサイトです！

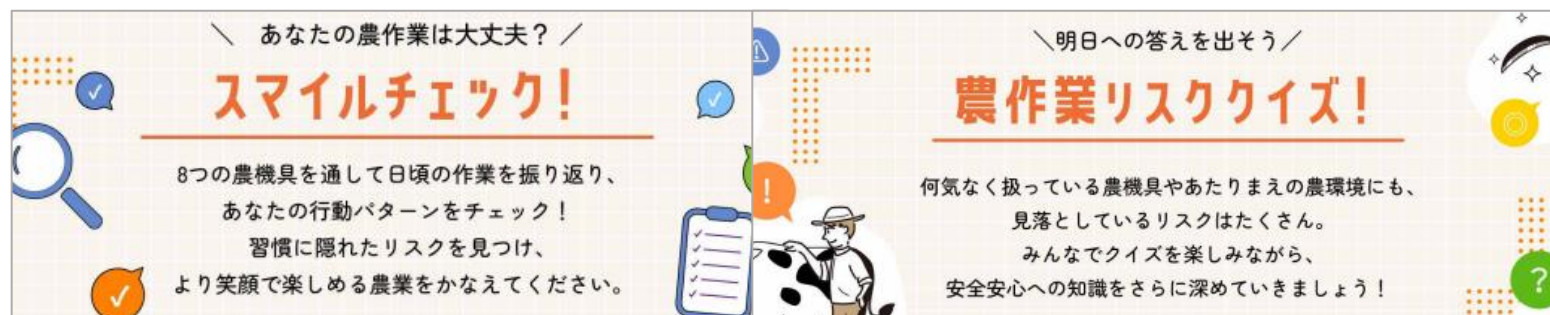
○ 農作業事故体験VR動画や各種チラシ・資材等についてもご覧になれます！

※アクセスは、
JA共済地域貢献活動ホームページ「ちいきのきずな」より、
お役立ちコンテンツ - 暮らし・営農 をクリック!!



二次元コード
からも!!

<コンテンツ例>



JA共済ではこれからも持続可能な農業に向けて貢献して参ります。

